



東京会工会だより No.7

平成17年4月20日発行 東京会工会事務局 川崎市中原区上平間2079-1(ニッポ一産業㈱内) TEL044-544-0811

ご挨拶



東京会工会会長

荒井 士郎

(34年K卒)

昨年十月、会工百年史が発行された。歴史の重みを充分に感じる圧巻である。資料・収集・精査と編纂委員の方々のご苦労は、筆舌に尽くせない作業だったろうと推測致します。本当にお疲れ様でした。

単依に学校の出来事ばかりが、当時の時代背景まで詳細に盛り込まれ、会工史というより会津史といつても過言でないようなすばらしい内容である。先人の残された数々の資料・手記を読み、改めて十年一昔といった時代の差を痛感させられた。

一気に読破する性質のものでもないで、時間の許す範囲を割り当て、今、ようやく昭和十年代を読んでいるが、いずれも先輩諸兄の真摯な心に目頭が熱くなるのを禁じ得なかった。

校歌の中に『至誠勤労一すじに』とあるが、真に実践されていたのではなからうか。振り返るに自分はどうかだったろうか。甚だ心もとない。多分、適当に過ごしていたのであろうと思ひ、反省すること『多』であるがすでに遅すぎた。

この素晴らしい会工百年史を一番読んでほしいのは、在校生であり、これから入学してくる学生だと思ふ。少なくとも在学中に自分の進んだ学校の歴史を年表でとらえる事ではなく実質を見る事に依り、卒業後の同窓会に対する思いも変わるのではなからうか。東京会工会は、平成二十三年に発足から百年を迎えます。

記念誌の発行を予定しておりますが、諸兄の御協力なしには、発行する事が出来ません。何卒、叡智をお借りし、後世に残せる記念誌を発行したいと思っております。宜しくお願い致します。

また、記念事業の一環として、母校の校庭周囲に桜を植樹致します。桜が咲き始まるのが、約十年後、桜花爛漫になるには、二十年程かかるとおもわれますが、鶴ヶ城に負けない立派な桜の名所になるであろうと、また、永続性に富んだ宣伝媒体と想像し、胸をワクワクさせております。

年々、関東地区への卒業生の進出は減少し、近年は、個人情報問題もあり、卒業生の住所録を入手する事が困難になってきました。

今年、東京会工会のPRを兼ねて、卒業生全員に『名入タオル』と後記(七ページ下段)のようなメッセージを送りました。何年後になるか分かりませんが必ず芽が出るものと確信しております。

東京会工会の火を消さない為にも、会員諸氏の御協力を重々に伏してお願致します。

お礼の言葉

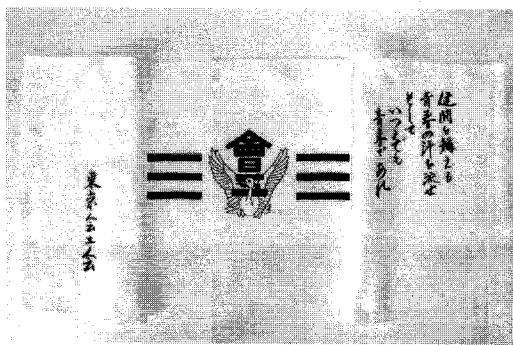
東京会工会会員御一同様

東京会工会の皆様、私達卒業生一同のためにこのような記念品を贈っていただき有り難うございました。この記念品に書かれている「いつまでも青春であれ」という言葉通り、いつまでも若く元気な心と体をもつて、一人ひとり、仕事や学業など、それぞれの道で頑張つて参りますので、今後とも指導下さいますようお願い致します。

県立会津工業高等学校機械科一組

渡部 和 弥

(平成十七年三月卒業生代表)



五十嵐 栄氏(24年T卒)書

東京会工会百周年記念事業 桜苗木植樹祭

十七年三月二十六日(土)十二時より会津工業高等学校敷地内にて、東京会工会一〇〇周年記念事業の一環として、桜苗木の植樹祭を行いました。

植樹祭当日は、前夜の積雪、また小雪の舞う天気でありましたが、宮司、八角神社主により、神事が滞りなく進められました。神事の後は、校長先生を始め、同窓会の皆様に丁寧なもてなしをいただきました。

桜の花が咲くのは、数年後となるでしょうが、薄紅色の清らかな花が咲き誇るものと思ひ、すくすくと育つよう祈念しております。

尚、出席者は、左記の通りです。

- ・ 学校関係者
熊田校長・渡辺教頭・白井教頭・渡辺事務長・梨子本先生
- ・ P T A 関係者
佐藤会長・五十嵐副会長・新保副会長
菊地副会長
- ・ 同窓会関係者
吉田顧問・梅津会長・手代木利夫副会長・手代木徳夫副会長・平田副会長・坂場副会長・若狭幹事長
- ・ 東京会工会
荒井会長・岡島副会長・金子副会長
五十嵐幹事長・田中副幹事長・小池常任幹事

桜基金のお願い

東京会工会は、桜の植樹を一〇〇本予定しております。ただし、桜は、植樹後、五年程メンテナンスが必要で、苗木代・植込代・消毒・冬囲等が十年間で、百二十万円程必要になります。

花が咲くのは、八、九年後となりますが、夢をかなえるべく、皆様の御厚志を承りたいと存じます。一口一〇〇〇円(目標御一人様五年間で五〇〇〇円)、会費と一緒に振り込んで頂ければ、幸甚に存じます。何卒、ご協力下さいますようお願い致します。



東京会工会の活動

一、平成十六年度会務報告

- ① 四月十六日(金)
・ 役員会(ふくしま会館) 出席18名
・ 平成十五年度会計報告(案)確認
・ 平成十六年度予算(案)の検討
・ 総会準備(内容の検討・役割分担等)
- ② 五月十五日(土)
・ 郡山会工会総会(郡山市)
出席 板橋 桂顧問
- ③ 五月二十二日(土)
地引き網(荒天中止)
- ④ 六月十三日(日)
・ 東海会工会総会(名古屋市)
出席 五十嵐昭夫幹事長
- ⑤ 六月二十六日(土)
・ 平成十六年度総会(上野 精養軒)
来賓6名、会員78名
- ⑥ 六月二十七日(日)
・ 近畿会工会総会(京都市)
出席 荒井土郎会長
- ⑦ 七月三十一日(土)
・ 役員会(ふくしま会館) 出席15名
・ 総会反省及び会計報告
・ 梨狩り・芋煮会・ゴルフコンペ準備
・ 東京会工会百周年記念行事について
- ⑧ 九月四日(木)
・ 梨狩り(千葉原鎌ヶ谷 大山園) 26名
- ⑨ 九月十五日(水)
・ ゴルフコンペ(栃木ヶ丘CC) 22名
- ⑩ 十月十日(日)
・ 芋煮会(多摩川河畔 大黒屋) 33名
- ⑪ 十月十六日(土)
・ 本部同窓会総会(会津若松市)

出席 荒井会長・芳賀副幹事長

- ⑫ 十一月五日(金)
・ ゴルフコンペ(御殿場GC) 11名
- ⑬ 一月十三日(土)
・ 会工百周年記念誌出版記念パーティ
出席 荒井土郎会長 (会津若松市)
- ⑭ 十二月十一日(土)
・ 役員会(ふくしま会館) 14名
・ 梨狩り・芋煮会・ゴルフコンペ報告及び反省
・ 顧問・幹事合同役員会及び新年会について
- ⑮ 一月二十三日(日)
・ 顧問・幹事合同役員会(上野 翠鳳) 32名
- ⑯ 三月一日(火)
・ 会津工業高等学校平成16年度卒業式
出席 荒井土郎会長 (会津若松市)
- ⑰ 三月二十六日(土)
・ 東京会工会百周年記念事業 桜苗木植樹
出席 荒井会長 他5名(会津工業高等学校)

二、平成十七年度活動計画(案)

- ① 四月下旬 『東京会工会だより』発行
- ② 五月二十一日(土) 地引き網(茅ヶ崎 西浜海岸地引き網場)
- ③ 六月二十五日(土) 東京会工会総会(精養軒)
- ④ 九月三日(土) 梨狩り
- ⑤ 九月十四日(水) 東地区ゴルフコンペ(栃木ヶ丘CC)
- ⑥ 十月二十三日(日) 芋煮会(多摩川河畔登戸)
- ⑦ 十一月十日(金) 西地区ゴルフコンペ(大厚木CC)
- ⑧ 一月下旬 顧問・幹事合同役員会及び新年会

《訃報》

- 平成16年6月15日 渡辺 久雄氏(38年E卒)
 - 平成15年10月10日 猪俣 雄三氏(27年M卒)
 - 平成15年11月1日 鈴木 利和氏(31年C卒)
 - 平成16年5月6日 江川 義治氏(13年C卒)
 - 平成16年7月30日 近藤 経雄氏(30年C卒)
 - 平成16年10月10日 水野 正雄氏(24年K卒)
 - 平成17年1月30日 大島 武二氏(20年C卒)
- ここに謹んでご冥福をお祈り致します。

新会員ご紹介

大八木 弘明

(河東町出身・52年T卒)

大八木氏は現在、駒澤大学の箱根駅伝監督として、活躍されております。今年の箱根駅伝は、往路二位、復路一位の総合優勝をとげ、箱根駅伝四連覇の偉業を達成しました。更に、史上初の五連覇をめざし、現在も日々指導に取り組んでおられます。



大八木弘明(おおよぎひろあき)一九五八年(昭三十三)七月三十日、福島県河東町生まれ。

会津工業高校を卒業後、小森印刷、川崎市役所で競技を続ける。箱根駅伝を走りたという思いから八十三年に駒澤大学に入学。昼は社会人、夜は学生の二足のわらじを履きながら練習を続けた。一年から三年までエースとして箱根駅伝に出場し、一、三年次には区間賞も獲得している(四年次は年齢制限で不出場)。卒業後はヤクルトで選手生活を送り、のちにコーチとなる。九十五年に駒澤大学のコーチに就任。助監督を経て、現在は監督として指揮をふるっている。

(駒大スポーツ新聞・平成十七年一月号より)

福島民友

2005年(平成17年)3月3日(木曜日)

会津版

若松	支社	会津	市役所	栄町	7ノ2
松多	支社	会津	市役所	寺町	4744ノ1
坂下	支社	会津	市役所	下	769ノ1
苗田	支社	会津	市役所	南	22ノ4
田島	支社	会津	市役所	甲	3759ノ4
西会	支社	会津	市役所	乙	2230

キラリ涙と思い出

各高校で卒業式

高校の卒業式が行われた一日、会津地方の各高校では、卒業生たちが将来への希望を胸に、思い出の学びやを果立った。この日、卒業式を迎えたのは県立高校二十校、私立高校二校合わせて三千四百五十七人。式では、父母たちが見守る中、卒業生たちが校長から卒業証書を受けた後、恩師、在校生たちからの激励を受けながら、学びに別れを告げた。

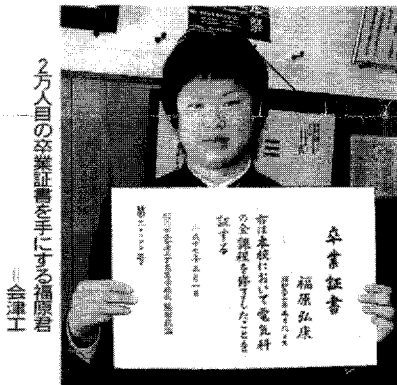
【会津工】インターネット、セラミック、化学工業、機械、電気、情報技術、建築の各学科合計三百二十一人が卒業。本年度、卒業生が二万人を超え、二万五千五百四十人となった。

卒業生一人ひとりの名前が呼ばれ、熊田良治校長が卒業証書を授与した。熊田校長が「夢をあきらめないで努力してほしい」と式辞。

在校生代表の齋藤淳君が送辞、卒業生代表の関和裕君が「創立百周年の年に入学し、卒業生二万人の年に卒業する。この節目を忘れず会津の誇りを持って歩んでいきたい」と答辞を述べた。

東京在任の同窓生らでつくる東京会工会(荒井士郎会長)は、校章入りのタオルを作り、卒業生に贈呈した。

新制高以降 2万人目の卒業生



2万人目の卒業証書を手にする福原君
会津工

一九四九(昭和二十四)年に新制高校となってから二万人目の卒業生となったのは、電気科の福原弘康君。「第二〇〇〇〇号」と書かれた卒業証書を手にして「自分に当たるのは、びっくりです」。

卒業後は埼玉県の大学に進学予定で、「運を使いすぎてしまったかも。でも大学でも頑張ります」と笑顔で話していた。

福原君「びっくりです」

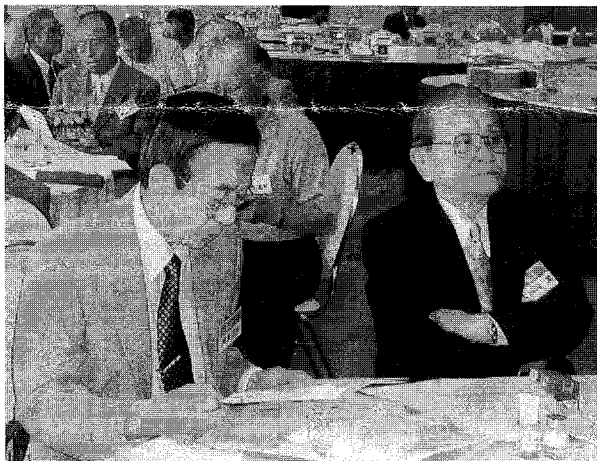
平成十六年度総会

平成十六年六月二十六日(土)、上野精養軒にて恒例の総会が開催されました。ご来賓六名、会員七十八名の総勢八十四名の出席となりました。

総会では、東京会工会発展につながる質疑応答、親睦会では、先輩・後輩が、高らかに校歌、応援歌を唱いました。そして、ゲストのキングレコード専属歌手、北川祐二さんの熱唱があり、楽しい一時が過ぎ、またの再会を約束して閉会となりました。



▶ 恒例の鏡開き



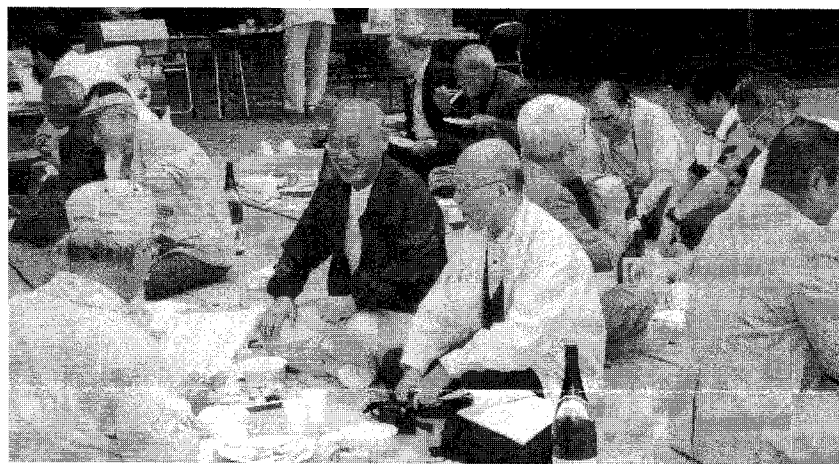
▶ 会務報告に聞き入る会員
先輩も後輩も声高らかに



芋煮会

芋煮会は、台風の影響で、翌日に順延となり十月十日(日)に開催されましたが、開催当日は、台風一過の晴天となり、会員とその家族、約三十数名が参加され、会津の銘酒を抱えながら談笑し、楽しい一日を過ごしました。

また、参加された事の無い方は、是非一度、ご参加下さい。お待ちしております。



第二回 西関東ゴルフ大会

五十嵐 清 夫
(33年K卒)

昨年十一月五日(金)、静岡県御殿場ゴルフクラブにて、第二回目のゴルフコンペを十一名の参加で行いました。今回は伊藤孝行さんのお骨折りにより、



富士山の絶景を味わいながらプレーすることができました。また、古河市の遠くから成田正明さんに参加していただき、大会を盛り上げて頂きました。

当日は、すばらしい晴天に恵まれ、富士山が雪化粧をして会工会の健友を迎えてくれています。とても楽しい一日を過ごすことができました。参加者の皆さんに御礼を申し上げます。

- 《優勝》 五十嵐清夫 (33年K卒)
- 《準優勝》 佐藤 功 (39年L卒)
- 《第三位》 岡村 進 (32年E卒)



第十五回 北関東ゴルフ大会

菊地 勲
(29年M卒)

平成十六年九月二十五日栃木ヶ丘ゴルフ倶楽部に於いて参加者二十二名、秋晴れの下、ゴルフ大会が行われました。その大会で優勝することができ、大変な感激です。上京して五十年同窓会の諸先輩とも生き馬の目を抜く東京(江戸)で、日頃のお付き合ひも俣ならず、また、顔見知りの方々も少ない中で、旧知の如くに参加できる雰囲気、この様なゴルフの世界が堪らなく好きです。会社の同僚と三十歳からゴルフをはじめ、今でも年間八十回以上はラウンドしています。健康維持が目的ですが、家族には、大変迷惑を掛けていると承知しています。年々飛距離は落ちて、寄せONEゴルフになりハンデ戦は、苦手です。今回参加して和気藹々と会津弁が飛び交う少年の頃の世界を忘れかけていました。スタート前の集合に、何人が遅れたときに幹事さんが「ぼっこでもしているのかな!」の言葉を聞いたときには、一瞬の驚きと懐かしい気分になりました。幹事さん有り難う。敬意を称します。

また、小生、東京の二八そば打ちを研究しています。東京五日市の養沢センターで、月例のそば打ち、ゆで、試食、評価会を開催しています。興味のある方は、一報下さい。

- (電話)〇四二(五三三)七〇六五
- 《優勝》 菊地 勲 (29年M卒)
- 《準優勝》 小林 学 (31年C卒)
- 《第三位》 田中 健一 (42年E卒)



梨狩り

室井耕平
(29年T卒)

初めて東京会工会に参加して、懐かしい先輩同輩に会い、会津弁で話した時は、昔の学生時代を思い出しました。私事ですが鎌ヶ谷在住三十有余年過ぎますが最近まで梨の産地である事をあまり知りませんでした。これからも色々な行事に参加しますのでよろしく。皆様も体に気を付けて下さい。当日、鎌ヶ谷は小雨でしたが、梨園は幸水の甘い香りでいっぱいでした。また、板橋先輩(25T)の奥様の手作りによる鮭の粕汁の味は絶品でした。



大日本水産功績賞受賞される

名誉顧問

室井 忠六氏
(24年T卒)



名誉顧問室井忠六氏は、平成十六年十一月二十五日、赤坂の石垣記念ホールに於いて、桂宮宜仁親王殿下のご台臨を仰ぎ、表記功績者として、表彰をされました。大変な名誉なこと、私達同窓生としても喜ばしいことです。

受賞は、故鈴木善幸元総理大臣の推薦によるものです。

『室井忠六君は、昭和二十八年三月東京水産大学(現東京海洋大学)増殖学科を卒業後、覺田真珠株式会社、真珠養殖の第一歩を踏み出され、日宝真珠株式が昭和三十一年南洋真珠開発のため西豪州に進出するに際して同社の事業に参加、技術者として四年間にわたり白蝶貝による養殖事業に従事しました。』

その後同社はアラフラ海の木曜島にも進出し、室井君は現地養殖場の支配人として十年間同事業の運営と技術指導にあたられました。この間には機構や生活条件の変化現地スタッフとの調整など厳しい問題もありましたが、室井君は試練を乗り越えて、技術の革新と日豪両国にわたる真珠産業の振興に尽くされました。

南太平洋の仏領ボノシア(タヒチ)では黒蝶貝から生まれる天然の黒真珠が知られており、当時タヒチ水産局は、日本が有する独占的の真珠養殖技術の協力を仰いで珊瑚

礁の島々で黒蝶貝を利用した黒真珠の養殖を成功させ、観光産業に次ぐ(孤島)における地場産業として育成しようとして昭和三十六年日宝真珠株式にその指導を求めてきました。

当時黒蝶貝から真円真珠を作ることは技術的に大変難しいとされておりましたが、室井君は同年六月赴任先の豪州から単身タヒチに赴き、養殖設備も何も無い、あるものは母貝となる黒蝶貝だけという環境の中の白蝶貝による経験と技術を応用して早速試験養殖に取り掛かり、試行錯誤の末、一〇〇枚の母貝に挿核し、一年後に百二十個の黒真珠の養殖を成功させました。毎年二カ月の赴任、三度目の渡航でようやく満足できる養殖が軌道に乗るようになりました。以来四十年百二十個の真珠からスタートしたタヒチの黒真珠産業は、年間生産六百万個を超えるまでに成長し、いまや同島の有力な輸出産業の一つに数えられ、日仏友好促進と我々の真珠産業にも大きく貢献しております。これはひとえに室井君の技術力に言うに及ばず、彼の人間性と指導力の賜物であることに鑑み、室井忠六君を水産功績者として推薦いたしますので何卒よろしくお取り計らい下さいますことをお願い申し上げます。

以上が故鈴木善幸元総理大臣による推薦状の主旨です。

このように室井忠六氏は、真珠産業への多大な功績が高く評価され、大日本水産功績賞を受賞されました。受賞された事は、ご本人はもとより、ご家族、そして、同窓会会員一同の喜びです。今後も、ますますご健康でご活躍されることを同窓会会員一同祈念致しております。

(会工会だより編集部記)

その時歴史は動く



顧問

五十嵐 榮

(24年丁卒)

一九九一年六月設立八〇周年記念誌が出版された時、刊行委員長を務めたので何とか年表をと思い、前会長井上眞市氏に依頼したが残念ながら実現されなかった。井上先輩は自らの文の中で次のように述べている。

——年表を編んでくれないかとの要請があったが、遺っている古い記録・会報・記念誌のたぐいを洗いざらい集めて目を通してはみたが、欠落分が圧倒的に多く通観できる「年表」の編集は残念ながら断念せざるを得なかった。『回想する会報から』の文から——

一九一一年九月、神田「ときわ」に卒業生十二名集い第一回卒業生植村寅生（染卒学生後に東京大学卒業）を代表に東京福工会設立された。この時、歴史は動き呱呱の声を上げた。同窓会は、一九〇七年三月に設立され学校長が会長を兼務し、一九五三年五月にはじめて卒業生の会長が誕生している。

私は、一九八六年十二月六回目の転勤で、三度目の東京勤務となつて久々振りに我が家に帰った。思えば、大阪・北陸・九州福岡と全国を歩いて健康で勤務出来たのも家内のお蔭と感謝している。翌年二月突然井上会長から長文の書翰が来て、会工会の賦活再生を依頼されたので、二年余り全力を

つくして努力し、多くの賛同を得て一九九〇年、浅草「ニューオータニ二会館」にて設立八〇周年記念総会を開催し、新執行部を発足させた。自ら副会長兼幹事長に就任し、全体を大きく引つ張り、その時歴史は動いた。一九九二年十一月、母校創立九十周年記念式典も役員多数出席し、記念事業募金も目標を突破達成し、大成功裡に責任を全うした。

一九九三年一月、一身上の都合により辞任願いを提出し、一切の役職を辞任した。辞任後、最後のご奉公と思ひ、今まで井上眞市氏、日下部春雄氏存命中に種々話を伺ひ、その都度メモしておいた資料を整理し、年表作成を決意し、佐藤勝次先輩が詳細に記録してあつたメモを調査し、今までの会報など洗いざらい集めて、再検討し、その上、大松産業㈱に伺ひ、何かと資料を引き出し、また、電話等にて何うなど、年表らしい原稿がまとまつた。

一九九五年二月に兄勇作が二〇年がかりでまとめた原稿を元に「会津歴史年表」（福島出版文化賞受ける。三七〇頁歴史春秋出版社）が出版されたが、その手法に習い作業に入る。

その間、中田宏司、元幹事長にも良き助言をいただき加筆しながら四年がかりでようやくやくまとまつた。二〇〇〇年四月のことであつた。

東京会工会会報九〇周年記念号に記載されている年表である。

創立九〇周年記念誌の同窓会年表（三四五頁〜三五二頁）をみると、一九五三年六月〜六四・六の間に若松・福島・近畿・東海の各々の会工会結成されたことが記されているが、東京会工会については何処を見ても記載されていない。従つて、卒業生自ら

の力で結成された福工会について触れられない事情があると思われる。一九五四年六月発行の会誌（磐梯）には、当時の幹事長佐藤勝次氏は「東京会工会とは何ぞや」と題しての論文の中で次のように述べている。

——（東京会工会と同窓会との関係）これは、直接何等の関係もありません。始めから東京に居住するものだけで母校同窓会とは別個に組織されたものです。従つて下部組織でも何でもありません。——（東京会工会会誌「磐梯」から）

従つて、在京同窓会東京会工会は異質なもので卒業生自らが結成した唯一の存在であつた。この歴史的意義を私達はしっかりと心に刻み、忘れてはならないと思う。そういうことを踏まえて会長以下役員は母校及び同窓会本部に対応すべきであると思う。本会の将来は一に会員の叡智と勇氣である。発展あらんことを祈る。

卒業生諸君

卒業おめでとう。あたり前のことが、あたり前に出来る社会人になつて下さい。ささやかですが、記念品として『タオル』を贈ります。御受納下さい。

東京会工会は、一九一一年九月東京神田『ときわ』で卒業生十二名が集まり同窓会『東京福工会』として発足しました。一九四一年、『東京会工会』と改称、関東地区を中心に同窓会の心のよりどころとして、故郷を語り、母校の発展を願ひ、懇親の場として継続、現在に至りました。そして、二〇一一年には、一〇〇周年を迎え、その記念イベントとして、母校校庭周辺に桜を植樹することを計画、今年三月末に二〇本植樹し、二〇一一年までに一〇〇本を予定しております。二〇年、三〇年後、春は桜花爛漫の校庭となり、暑い夏は、木陰を作り体育会系の憩いの場となる事と願つております。《東京会工会年間主な行事》

- 五月 地引綱
- 六月 総会『上野精養軒』
- 九月 梨狩り・ゴルフコンペ
- 十月 芋煮会
- 十一月 ゴルフコンペ

以上の行事を中心に卒業生同志親睦を深めておりますが、任意の団体ですので、本人の申込みがなければ案内は届きません。生活の基盤が出来てからで結構です。東京会工会に入会しませんか。やがて後輩、家族に母校の桜は我々が植樹したのだと誇る事が出来る時が来ると思います。

東京会工会会長 荒井士郎（34年K卒）
ニッポ産業株式会社 代表取締役



東京会工会

故 井上眞市前会長
（平成二年六月十日・浅草ニューオータニ会館・会工会八十年記念会場にて）

平成16年度東京会工会総会出席者

日時：平成16年6月26日(土) 場所：上野精養軒

(敬称略)

〔御来賓〕 会津工業高校校長 熊田 良治 郡山会工会会長 荒井 久(18T)
 同窓会副会長 手代木利夫(28A) 東海会工会会計幹事 笠間 忠英(35A)
 同窓会事務局 梨子本 傑(41K) 近畿会工会会長 渡部 藤雄(31E)

〔会 員〕

- | | | | | |
|-----------|-----------|------------|-----------|-----------|
| T16 押山登喜男 | K33 渡部 善七 | C31 秋山 利光 | E 29 坂内 寿 | A32 山口 善弘 |
| 24 五十嵐 栄 | 34 荒井 士郎 | 33 金川 和也 | 30 川島 良夫 | 33 澤里 勝人 |
| 25 板橋 桂 | 34 小林 智 | 35 山内 尚 | 31 鈴木 忠恵 | 35 五十嵐昭夫 |
| 34 石綿 弘 | 34 櫻井 靖久 | M23 諸橋 栄輔 | 32 岡村 進 | 35 渡部 伊雄 |
| 34 小池 清 | 34 辺見 輝夫 | 24 児島 正俊 | 32 小桧山 昇 | 38 小林 義明 |
| 34 佐々木 栄昭 | 36 渡辺 満 | 24 佐治 信男 | 33 五十嵐 邦雄 | |
| | 37 斉藤 博正 | 24 川島 保 | 36 堀 雅宏 | |
| L20 大川原 薫 | 44 高木 博康 | 27 川島 善雄 | 37 阿部 龍吉 | |
| 21 鶴川平四郎 | 47 武藤 政明 | 27 田場川 昭夫 | 37 星 実 | |
| 35 芳賀 勝義 | C17 渡部幸四郎 | 27 舟田 昭夫 | 40 星 陽一 | |
| 39 佐藤 功 | 20 木下 繁利 | 38 伊藤 孝行 | 42 田中 健一 | |
| | 23 秋山 勇 | 38 佐藤 利秋 | 43 内川 義則 | |
| K21 小野 昭 | 24 蓬田 光雄 | 39 古見 四友 | D40 芳賀 博 | |
| 31 古川 征一 | 25 赤津 仲雄 | 39 渡部 武弘 | A28 渡部 保男 | |
| 32 岸 宗男 | 27 秋山 利喜 | 40 杉原 努 | 31 大矢 隆 | |
| 33 五十嵐清夫 | 29 岡島 文弘 | 40 鈴木 邦男 | 31 中丸 正弘 | |
| 33 大竹 國正 | 30 国井 成夫 | E 26 管家 忠平 | 32 金子 昌輝 | |
| 33 加藤 修次 | 30 小町谷昌宏 | 27 佐藤 達也 | 32 宮森 健介 | |
| 33 出羽 重夫 | 30 近藤 経雄 | 27 新藤 健 | | |
| 33 玉川 進 | | | | |

出席者 84名
(来賓6名含む)

平成16年度決算書

(自 平成16年4月1日 ~ 至 平成17年3月31日)

(単位：円)

	平成16年度予算案	平成16年度決算	比較増減	備 考
前期繰越金	A 664,069	A 664,069		
収入の部				
総会会費	810,000	702,000	▲ 108,000	78名
年会費	500,000	443,000	▲ 57,000	224名
芋煮会会費	300,000	165,000	▲ 135,000	33名
役員会合同新年会費	240,000	248,000	△ 8,000	31名
同窓会助成金	100,000	100,000	0	
受取利息	0	0	0	
ゴルフ大会費	350,000	350,000	0	
梨狩り会費	0	78,500	△ 78,500	27名
三浦海岸地引網会費	150,000	0	▲ 150,000	中止
雑収入(寄付等)	300,000	500,351	△ 200,351	
小計	B 2,750,000	B 2,586,851		
合計	A+B 3,414,069	A+B 3,250,920		

支出の部				
総会会費	900,000	933,113	△ 33,113	
芋煮会費	300,000	179,200	▲ 120,800	
役員会合同新年会費	240,000	231,852	▲ 8,148	
通信・印刷費	130,000	156,960	△ 26,960	
事務用品費	10,000	630	▲ 9,370	
地方同窓会参加費	120,000	118,010	▲ 1,990	
役員会会議室代	70,000	51,307	▲ 18,693	
『会工会』だより発行	150,000	158,340	△ 8,340	
事務局費	30,000	50,000	△ 20,000	
ゴルフ大会費	350,000	350,000	0	
三浦海岸地引網会費	150,000	0	▲ 150,000	
梨狩り会費	0	68,034	△ 68,034	
雑費	200,000	299,518	△ 99,518	タオル、植樹祭など
小計	2,650,000	2,578,964		
翌期へ繰越	767,069	671,956		
合計	3,417,069	3,250,920		

編集後記

春暖の候、会員の皆様には、お健やかに
 お過ごしのこととお慶び申し上げます。
 昨年は、新潟中越地震、スマトラ島沖地震、
 それに伴う津波など大災害がありました。

今年、平穩無事な一年でありますよう祈
 るばかりです。
 さて、本年も別紙の通りイベント盛り沢
 山ですので、是非ご参加下さい。お待ちし
 ております。また『会工会だより』に学生
 時代の思い出やエッセイなどご投稿下さい。
 今後、ますますご協力下さいますようお願い
 致します。(編集部一同)